



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役社長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画本部 広報・IR部
 TEL 03-6895-0178

2008年3月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率 (%)

	3月度
百貨店業	0.2
スーパーマーケット業	0.7
卸売業	▲11.9
その他事業	10.5
連結合計	▲1.0

(注)当社は2007年9月3日設立のため、対前年増減率は、前年の大丸グループ、松坂屋グループの売上高を本年と同様の手続きにより集計した数値と比較して算出しております。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- ・3月の百貨店事業の売上高は、日曜日が対前年1日増であったことや、東京新店が依然2桁増で牽引したこともあり、大丸直営店は対前年2.6%増。
 一方、松坂屋は店頭は対前年0.9%増であったものの、外商部門が高額品の不振や大口受注の反動などにより同▲11.4%減となり、松坂屋直営店は同▲1.7%減。この結果、両社百貨店事業全体では同0.2%増となった。

2) スーパーマーケット業

- ・大丸ピーコックは、「西梅田店」(前年11月オープン)「新神戸駅前店」(2月オープン)「新千里西町店」(3月26日オープン)の嵩上げ効果もあり対前年0.4%増、地区別では関東地区が同▲1.7%減、関西地区は同3.3%増となった。
 一方、松坂屋ストアは依然好調な磯子店が対前年2桁増で牽引し、松坂屋スーパーマーケット事業合計で同1.8%増となり、大丸・松坂屋両社スーパーマーケット事業合計では同0.7%増となった。

3) その他

- ・卸売業の大丸興業は、電子部品やホームセンター向け商材、アパレル向け衣料などの苦戦により、対前年▲11.9%減となった。

お問い合わせ先	J.フロント リテイリング株式会社	広報・IR部
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2008年3月度 大丸 百貨店業 営業報告

1. 店舗別売上高対前年増減率 (%)

	3月度	
	売上高	入店客数
心齋橋店	▲1.7(▲2.1)	▲1.7
梅田店	▲5.4(▲5.7)	▲2.4
東京店	15.5(15.1)	43.4
ららぽーと横浜店	▲4.3(▲4.3)	—
浦和パルコ店	—	—
京都店	0.0(▲0.3)	▲2.0
山科店	0.5(0.5)	—
神戸店	1.1(0.7)	▲0.2
新長田店	▲6.3(▲6.3)	—
須磨店	3.1(3.1)	—
芦屋店	1.0(1.0)	—
札幌店	6.7(6.4)	3.7
直営12店舗計	2.6(2.3)	8.5
除く浦和パルコ店	1.7(1.3)	—
博多大丸	▲6.2(▲6.3)	▲3.0
下関大丸	0.4(0.3)	2.7
高知大丸	▲1.1(▲1.1)	1.0
今治大丸	▲3.2(▲3.2)	▲8.0
百貨店業合計	1.3(1.0)	—
除く浦和パルコ店	0.5(0.2)	—

- (注) 1. 2007年5月度より、その他営業収入(不動産賃貸料収入)を売上高に含めている。
 2. ()内数値は、不動産賃貸収入を除く従来ベースでの対前年増減額
 3. 浦和パルコ店は2007年10月10日にオープンした。

2. 直営店 商品別売上高対前年増減率 (%)

	3月度
紳士服・洋品	▲3.4
婦人服・洋品	0.1
子供服・洋品	0.0
その他の衣料品	0.6
衣料品計	▲0.5
身回品	▲0.0
家具	▲9.0
家電	▲26.5
その他の家庭用品	1.6
家庭用品計	▲3.2
生鮮	10.4
菓子	9.0
惣菜	3.1
その他食料品	5.1
食料品計	7.0
食堂・喫茶	30.5
化粧品	10.1
美術・宝飾・貴金属	▲1.8
その他雑貨	▲6.5
雑貨計	2.5
サービス	7.1
その他	56.1(▲5.7)
合計	2.6(2.3)

3. 売上高概況

婦人服・洋品はキャラクターやミセスファッションは苦戦したものの、プレタポルテや特選が堅調に推移した。紳士服・洋品はスポーツファッションや催事などは好調に推移したものの、ビジネスやユニフォームの不調が響いた。身回品はホワイトデーギフト需要などもありアクセサリーが活発に動いた。食料品は浦和店の嵩上げのほか、東京店が2割増で牽引した。食堂・喫茶は心齋橋店が前年のレストランフロア工事閉鎖の反動増もあり大幅増となったほか、好調を継続する東京店も倍増となった。雑貨は化粧品が東京店で7割増で牽引するなど2桁増となったものの、美術など高額品が苦戦した。

2008年3月度 松坂屋 百貨店業 営業報告

1. 店舗別売上高対前年増減率 (%)

	3月度	
	売上高	入店客数
名古屋店	0.8	▲1.4
上野店	▲9.7	▲11.2
静岡店	▲1.6	▲2.8
銀座店	1.3	▲3.8
高槻店	5.2	3.1
名古屋駅店	4.2	14.0
豊田店	0.5	5.2
岡崎店	▲7.1	2.2
直営8店舗計	▲1.7	▲0.4
横浜松坂屋	▲5.8	▲5.9
百貨店業合計	▲1.9	▲0.7

2. 直営店 商品別売上高対前年増減率 (%)

	3月度
紳士服・洋品	▲2.2
婦人服・洋品	▲2.7
子供服・洋品	0.1
その他の衣料品	0.7
衣料品計	▲1.9
身回品	3.9
家具	▲6.1
家電	▲32.7
その他の家庭用品	▲15.9
家庭用品計	▲14.3
生鮮	6.7
菓子	4.7
惣菜	▲0.6
その他食料品	▲34.4
食料品計	▲5.0
食堂・喫茶	26.7
化粧品	5.8
美術・宝飾・貴金属	▲16.3
その他雑貨	17.0
雑貨計	1.7
サービス	2.6
その他	42.4
合計	▲1.7

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ワンピース、カットソーは好調だったが、ジャケットが苦戦した。身回品は、ラグジュアリーブランドが堅調に推移し、名古屋駅店の改装効果でハンドバッグが好調だったことにより前年を上回った。食料品は、店頭および催事の売上は好調であったが、その他食料品の法人大口受注減の影響で前年を下回った。食堂・喫茶は、名古屋店本館レストランが好調を持続し、改装オープン後10ヶ月連続で前年を上回った。雑貨は、化粧品は好調だったが、美術・宝飾・貴金属が、特に高額品の受注減により前年を下回った。